

看護学生49名の決意式

丸山 知子

札幌医科大学保健医療学部看護学科

私達の大学も看護界の4年制大学移行の波にのって、昨年4月に開学しました。10年間の短期大学教育を、あと2年間並行しながらの開学でした。沢山の課題をかかえながら、教育内容を充実させるよう教員も一生懸命です。

しかし、それ以上に学生自身の積極的、自主的な行動力には目を見張るものがあります。今回はそのことをご紹介させていただきます。

戴帽式へのあこがれと決意式

昨年4月、入学後まもなくの新入生コンパの時、ある学生が、「ここでは戴帽式をしないのですか？ぜひしてほしい……」と言いました。私はその時、「大学の行事としては行なわないけれど、学生が自主的に行なうことについては協力しますよ」と答えました。その時はこんなに戴帽式にあこがれや期待を持っている若者がいることに少々驚きました。

その後2～3か月たって、数人の学生が「戴帽式を行ないたい」という49名の署名を持って来たので、学生自身に計画を立てるように話し、「教員の協力が必要な時にはいつでも言って下さい」と話しました。

それからしばらくは音沙汰がなく、とうとう諦めてしまったのかと、学生のユニークな戴帽式に期待していた私は残念な気持ちになっていました。それがある日、「戴帽式について考えた結果、決意式をすることにした」と、その理由を書いて持ってきました。

そしてまたしばらくは連絡がなかったので気に

していましたところ、ついに、その決意式を2月12日に行なうことになったという知らせがあったのです。この式はすべて49名の学生の手作りによって行なわれました。

決意文と誓いの言葉

決意式は学生のご両親数名と、主に看護学科の教員の出席の中で行なわれました。その進行は本当に立派なものであり、私は感心しながら参加しておりました。式では学生代表2名が「決意文」を読みました。その内容は、キャッピングの時代的变化とその意味、「決意式」に至るまでの経過、キャンドル・サービスの意味、看護の目的やこれからの病院実習への心構えや感謝の気持ち等、心をうたれる温かな、しっかりしたものでした。

その一部を紹介します。「……病院実習に入るにあたり、生命を預かる者としての責任と自覚を再確認し、自分達の決意を新たにするための決意式……この式で行なわれるキャンドル・サービスには、ローソクが溶けて炎を燃やし、まわりを照らすことから、私達が知識や技術を発揮し、そのケアによって患者さんの生活が明るく、そして生きがいのあるものになるように、という望みが込められています。……今までに学んできたことを少しでも生かすと共に、一つでも多く新しいことを学んでいきたいです。そして、いつまでも初心を忘れず、仲間同士で助け合い、困難を乗り越え、喜びを分かち合いたいと思います」

そして、キャンドル・サービスではそれぞれが自分の言葉で一言ずつ話し、そのキャンドルの灯



火の中で、全員揃って自分達で考えた誓いの言葉
“自覚と誇り……人々の生命と権利を尊重……信
頼される看護者を目指し……広い視野をもち……
社会に貢献……”を唱和しました。

それぞれの価値観

この決意式によって、私の少々長くなった教員
生活に大きな刺激が与えられました。それは、“不
肖の親が立派な子”をもったような気持ちでした。

決意式では、学科長として話す機会を与えられ
ましたので、看護の知識と技術のすべての基盤と
なる“他者理解”について話すことにしました。
私は最近読んだ『心に残るとっておきの話』（潮文
社編集部編、潮文社）の中から“大きな10円玉”（小
林まゆ）の話をしました。それは、養護学校の寮に
入っており、いつもお母さんに電話をしている、
ある知恵遅れの子の話です。ある日、先生が算数
を教えている時、500円玉、100円玉、10円玉のど
れが一番金額が大きいのか、という質問に、その子
は何度説明しても「10円玉」と答えるので、どうし
てかその理由を聞くと、「10円は、電話ができるお
金。電話をすると、お母さんの声が、聞けるのよ」
と言ったのです。

私はこの話を通して、私達は一般的な価値観で
判断しがちだけれど、同じものであっても、人そ
れぞれに意味や価値観が異なり、その価値観を大
切にする心を失わないようにしなければならない
と話しました。

学生の可能性の萌芽

これからの看護学の確立と専門職業人としての
自立を目指し、学生が大きく飛躍してゆけること
を願っております。しかし、しばしば、高学歴に
なるほど知識と技術だけが優先し、その基盤とも
いえる“心”がおざなりになることを耳にします。
この知識と技術は誰のため？ 何の目的？ 目の
前にいる人をしっかり観ている？ など、いつも
反復し、バランスのとれた看護者となるよう期待
しています。

学生には大きな可能性が秘められており、その
若者達の芽をつぶさず、育てられるような環境づ
くりをすることが私達の役割であろうと、考えさ
せられております。そして今回の決意式を通して、
多くのことを気づかせてくれた学生に心から感謝
したい気持ちでいっぱいです。学生のこの純粋な
決意と誓いを大切にし、4年間を支えてあげたい
と思っております。

時々、教育の重要性を考えると、その重圧に
押しつぶされそうになりますが、このように学生
には多くの秘められた能力があることを信じ、教
師自身が学生と共に学ぶ姿勢を失わないよう、そ
して自己を見つめていくことが大切であると、あ
らためて感じさせられています。

* * *

次に、もう少し北海道の方をご紹介したいと思
いますので、旭川で助産婦学校の教務主任をして
いらっしゃる須藤桃代先生にバトンタッチをした
と思います。